

令和3年度第10回 感染症発生動向調査部会

令和4年1月19日

月番：馬場 尚志

1 前月の感染症発生動向について（2021年第48週～52週・12月）

<全数把握対象疾患>

- 結核は高齢者を中心に毎週報告あり。2021年累計患者数は対前年比88.8%、対前々年比76.6%（発症者では、対前年比81.8%、対前々年比74.0%）。
- 腸管出血性大腸菌感染症が第48週から第50週にかけて計11例報告あり、2021年累計患者数は対前年比180.0%、対前々年比44.1%。
- ツツガムシ病が第48週から第51週にかけて計11例報告あり、2021年累計患者数は対前年比121.7%、対前々年比233.3%。
- 日本紅斑熱が第50週に1例報告あり。感染症法上の報告として県内初の例であり、発症は11月で、入院当日に死亡した。国立感染症研究所の検査で確認された。
- デング熱が第48週に1例報告あり（前年は報告なし）
- レジオネラ症が2例報告あり、2021年累計患者数は対前年比134.1%、対前々年同期比100%。
- 後天性免疫不全症候群が計2例報告あり（いずれもAIDS）。2021年累計患者数は対前年比87.5%、対前々年比100%。2021年の無症候性キャリアが占める割合は28.6%（14例中4例）で、前年は43.8%（16例中7例）、前々年は35.7%（14例中5例）。
- 梅毒は計6例（うち早期顕症3例）報告あり、すべて男性であった。2021年累計患者数は、対前年比137.7%、対前々年比109.1%で（早期顕症例でも対前年比150%、対前々年比103.6%）。2021年の早期顕症例57例中56例（98.2%）が男性で、早期顕症例における男性の比率は、前年が76.3%（38例中29例）、前々年が70.9%（55例中16例）と増加している。

<定点把握対象疾患>

- インフルエンザは県全体で7例報告されたのみ（前年同期比116.7%、前々年同期比0.2%）。
- 咽頭結膜熱は71例報告され、前月比172.1%と増加傾向である（前年同期比98.6%）。
- 感染性胃腸炎は698例報告され、前月比193.2%と増加傾向であり、前年同期比も246.6%である（前々年同期比77.0%）。
- 手足口病は94例報告され、前月比1504.0%と増加傾向であり、前年同期比も4700%である（前々年同期比69.1%）。
- 性感染症定点疾患は、いずれも前年、前々年とほぼ同様の発生状況である。淋菌感染症については、累計では昨年と比べやや増加し、一昨年並み。

2 検討すべき課題

- 梅毒・性感染症の動向に関する背景要因について（継続）
- 昨年と比較し増加がみられる腸管出血性大腸菌感染症、感染性胃腸炎の背景要因について

3 情報提供すべき事項

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症、感染性胃腸炎の増加について（一般向け？飲食関連？幼児保育関連？）
- ・ ダニ媒介感染症について（医療者向け、一般向け）

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 令和3年度岐阜県予防接種研修会
 - 日時：令和4年3月23日（水）14時～16時
 - 場所：岐阜大学サテライトキャンパス（ハイブリッド開催予定）
 - 対象：県内予防接種行政担当者、実施担当者
- ・ ヒトパピローマウイルス（子宮頸がん）ワクチン定期接種の積極的勧奨再開
- ・ 新型コロナウイルス感染症
 - 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第6.1版」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000875189.pdf>)
 - オミクロン株、ソトロピマブ、モルヌピラビルなど

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種を進めるに当たっての相談支援体制・医療体制等の維持、確保について
- ・ 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会におけるキャッチアップ接種に関する議論について

<検討結果>